

りゅうがくせい にほんじんがくせい にほんご
留学生と日本人学生の やさしい日本語

ぼうさいはんどぶっく
防災ハンドブック



わかやまだいがく
和歌山大学

がいこく こ しえんぶろじえくと
外国につながる子どもへの支援プロジェクト



国立大学法人
和歌山大学

はじめに

にほん さいがい おお
日本は 災害が とても 多いです。

わかやま まいとし おおあめ たいふう お ひがいで
和歌山では、毎年 大雨や台風が 起きて 被害が 出ています。

おお じしん くる
また、これから 大きな 地震が 来るかも しれません。

はんどぶっく よ
この ハンドブックを 読んで おいて ください。



ひ きんじょ ひなんばしょ に みち
①日ごろから 近所の 避難場所（逃げるところ）と 逃げ道を

かくにん
確認して おいて ください

あわ お つ に
②慌てないで、落ち着いて 逃げて ください

ちか ひと きょうりょく こうどう
③近くの 人と 協力して 行動して ください

おお さいがい あと かそく だいがく れんらく
④大きな 災害にあった 後は、家族と 大学へ 連絡して ください

ひ
日ごろの
そな
備え

ひなんじよ に せいかつ
避難所（逃げる ところ）での 生活や、

ていでん でんき と
停電（電気が 止まること）や

だんすい みず と そな
断水（水が 止まること）に 備えて、

ようい
用意して ください



ひつよう りすと
必要なものリスト

た もの みず た
1:食べ物 水 すぐ食べられるもの

たいせつ みぶんしょうめいしよ ほけんしょう ざいりゅうかーど
2:大切なもの 身分証明書（保険証、在留カード）

くすり ぎんこうつうちょう いんかん かね
薬 銀行通帳 印鑑 お金

き くつ くつした したぎ うわぎ
3:着るもの 靴 靴下 下着 上着

にちようひん かいちゅうでんとう けいたいでんわ じゅうでんき かんでんち
4:日用品 懐中電灯 携帯電話 充電器 乾電池

ますく ぐんて たおる びにーるぶくろ
マスク 軍手 タオル ビニール袋

ていっしゅ ペン めも せいりようひん
ティッシュ ペン メモ 生理用品

みつ かぶん みず た もの
3日分の水と食べ物



じしん 地震



そと きけん 外での 危険なもの

①



へい
塀

②



じどうはんばいき
自動販売機

③



た さ でんせん
垂れ下がった 電線

じしん お とき 地震が 起きた 時

たお うえ お き
■倒れてくる ものや、上から 落ちてくる ものに 気をつけて ください

て - ぶ る つくえ した はい あたま からだ まも
■テーブルや 机の 下に入っ て、頭と 体を守っ て ください

ゆ と どあ あ
■揺れが止まったら、ドアを 開けて ください

ひ がす け
■火や ガスを 消して ください

に とき 逃げる 時

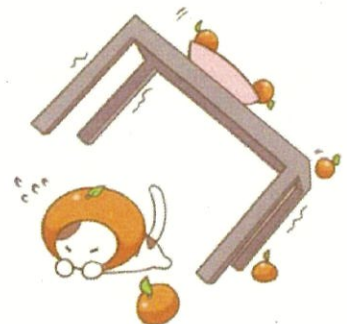
たいせつ もの も ある に
■大切な 物だけを 持って、歩いて 逃げて ください

え れ べ - た - つか かいだん つか
■エレベーターは 使わないで、階段を 使って ください

おお じしん あと つなみ たか なみ く
■大きい 地震の 後は、津波(とても 高い 波)が 来るかも しれません

うみ かわ はな たか ところ に
すぐに 海や 川から 離れて、高い所に 逃げて ください

おお じしん あと
大きい 地震の 後は
よしん おお じしん あと お じしん
余震(大きい 地震の 後に 起こる 地震)が
く
来るかも しれません



たいふう
台風



たいふう ちか き とき
台風が 近づいて 来た 時—

に ゆ - す いん た - な っ と み
■ニュース・インターネットを 見て ください

が ら す は へ ん と か - て ん し
■ガラスの 破片が 飛ばない ように、カーテンを 閉めて、

ま だ て - ふ は
窓に テープを 貼って ください

つ よ か ぜ と い え な か か た づ
■強い 風で 飛ばされそうな ものを、家の中 中に 片付けて ください

き け ん と き は や ひ な ん ば し ょ に に
■危険な 時は、早めに 避難場所 (逃げるところ) に 逃げて ください

あ め ふ
雨が たくさん 降ると、

や ま が け く ず
① 山や 崖が、崩れる ことがあります

か わ み ず ふ あ ふ
② 川の 水が 増えて、溢れる ことがあります

ひ じ ぶ ん
日ごろから、自分の まわりの

き け ん ば し ょ し ら
危険な 場所を、調べて おいて ください



い え な か み ず は い
家の中 中に 水が 入ってきたら、

た か に
高い ところに 逃げて ください





かじ お とき
火事が 起きた 時一

かじ おお こえ い
■「火事だ!」と 大きな 声で 言って、

ちか ひと おし
近くの 人に 教えます

かさいほうちき ぼたん お
■火災報知機の ボタンを 押して ください

でんわ
■119に 電話を します

しょうかき つか ひ け
■消火器を 使って、火を 消して ください

かさいほうちき
火災報知機



かじ み
火事を 見つけたら

ぼたん お
ボタンを 押します

ばん
119番のかけかた

かじ とき しょうぼうしょ でんわ
★火事の時、消防署へ 電話します



①「(〇〇：場所)で火事です」

②「〇〇が燃えています」

わたし なまえ
③「私 の名前は〇〇です」

でんわばんごう
④「電話番号は〇〇です」

たげんごつやく さーびす
★多言語通訳の サービスも あります

ひと きゅうきゅうしゃ びょういん
★けがをした 人を、救急車で 病院に



つ い とき ばん でんわ
連れて 行く 時も、119番に 電話 します

しょうかき　つか　かた
消火器の　使い方



- びん　ぬ
①　ピンを　抜く
- ほ　ー　す　さき　ひ　した　む
②　ホースの　先を　火の　下に　向ける
- れ　ば　ー　つよ　にぎ
③　レバーを　強く　握る

しょうかき　ひ　ちい　とき　つか
※消火器は　火が小さい時だけ　使います

ひ　つよ
火が　強すぎるとき

てんじょう　ひ
天　井に　火が　ついて　いるとき

そと　に
すぐ　外に　逃げて　ください

けむり　に　とき
煙　から　逃げる　時



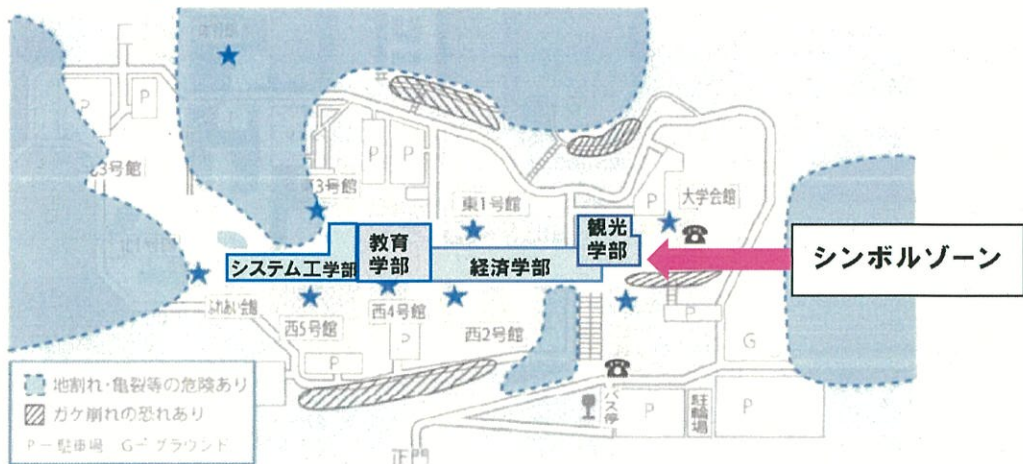
しせい　ひく
■姿勢を　低くしてください

ぬ　ぬの　た　おる　はん　か　ち　くち　はな　おお
■濡れた　布（タオル・ハンカチ）で　口や　鼻を　覆ってください

え　れ　べ　ー　た　ー　つか　かいだん　つか
■エレベーターは　使わないで、階段を　使ってください

ちす
地図

■各学部の避難場所・AED(★)・公衆電話(☎)の場所



だいがく とき いちじひなんばしょ に しんぼるぞーん
■大学に いる時の 一時避難場所 (まず 逃げる ところ) は、シンボルゾーンです

いえ とき ひなんばしょ に に みち しら
■家 に いる時の 避難場所 (逃げる ところ) と 逃げ道も 調べて おいて ください

じょうほう
**情報の
あつ
集めかた**

きしょうちょう ほーむぺーじ たげんご
■気象庁のホームページ (多言語)



たげんご じょうほう
多言語での 情報 があります

<https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/multi.html>

いっばんざいだんほうじん じちたいこくさいかきょうかい くれあ ほーむぺーじ
■一般財団法人 自治体国際化協会 (クレア) の ホームページ

たげんごせいかつじょうほう たげんご きんきゅう さいがいじょうほう
多言語生活情報 (多言語での 緊急・災害情報 があります)



<http://www.clair.or.jp/tagengo/>

ぼうさい
■あがら防災

わかやまだいがく ぼうさいかんれんぶろじえくと さくせい ほーむぺーじ
(和歌山大学の 防災関連プロジェクトで 作成した ホームページ)

わかやまけんない ひなんばしょ じょうほう
「和歌山県内の 避難場所」などの 情報 があります



<http://agara-bousai.jp/>

おお さいがい おこる でんわ つな
大きな 災害が 起こると、電話が 繋がりにくいです。

さいがいようでんごんばん さいがいようでんごん だ い や る つか
災害用伝言板 (web171) や 災害用伝言ダイヤル (171) を 使うと

さいがい ひと めっせーじ のこ
災害に あった人が メッセージを 残して、

かぞく ともだち めっせーじ き
家族や 友達が そのメッセージを 聞くことができます。

ひがしにほん にしにほん さーびす
(NTT東日本・西日本のサービスです)

さいがいようでんごんばん いんたーねっと
■災害用伝言板 (web171) 【インターネット】

にほんご えいご かんこくご ちゅうごくご
※日本語・英語・韓国語・中国語

ぶんしょう めっせーじ のこ
文章で メッセージを 残します

<https://www.web171.jp/web171app/topRedirect/>



さいがいようでんごん だ い や る つか かた でんわ
■災害用伝言ダイヤル (171) の 使い方 【電話】

じぶん めっせーじ のこ 自分が メッセージを 残す	めっせーじ きく メッセージを 聞く
① 「171」に 電話する ② 「1」を 押す ③ 自分の 電話番号を 押す ××× ×××× ××××	① 「171」に 電話する ② 「2」を 押す ③ 相手の 電話番号を 押す ××× ×××× ××××
④ 「1#」を押す(メッセージを残す) ⑤ 「9#」を押して 終わる	④ 「1#」を押す(メッセージを聞く)

留学生と日本人学生のやさしい日本語防災ハンドブック

■企画・執筆・編集・発行

和歌山大学 外国につながる子どもへの支援プロジェクト

長友文子 和歌山大学国際連携部門 教授

松下恵子 和歌山大学国際連携部門 特任助教

野村美雪 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 研究支援員

宮田果奈 和歌山大学観光学部 2回生

池内響弥 和歌山大学教育学部 2回生

姜楽宇 和歌山大学教育学部 研究生

Natasya Wanda Aryand 和歌山大学日本語・日本文化研修留学生

■わだにゃんイラスト担当

Natasya Wanda Aryand 和歌山大学日本語・日本文化研修留学生

■協力

宮定章 和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター 特任准教授

南出考 和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター 価値共創研究員

■発行日

2021年2月1日

■印刷製本

麦の郷印刷

外国につながる子どもへの支援プロジェクトは、和歌山大学紀伊半島価値共創基幹（Kii-Plus）の社会実装教育研究プロジェクトの一環であり、令和2年度地域活性化推進研究プロジェクトにも採択されています。

このハンドブックは、令和2年度地域活性化推進研究プロジェクトの成果物として発行するものです。

